新・連載　千葉の近代史を創った男の話⑤
追求する理想の教育
武田 弥太郎

八千代松陰高校は昭和53年に開校したが、開校2年目の秋の活躍で翌昭和55年に第52回選抜高等学校野球大会（春の甲子園）に初出場した。

大会3日目第一試合で兵庫の尼崎北に3対2で惜敗したが、創立2年で甲子園出場を果たしたとして、当時全国で話題になったものだった。

文武両道を掲げた創立

櫻井俊雄氏

者・山口久太の面目躍如の最たるものであった。

開校して初めての入学式で久太が発した最初の言葉は「みなさん、こんにちは」だったが、2番目の言葉はいきなり「やり直しっ！」。挨拶は基本だと先制パンチを食らわせたのだ。そして、「無事に学校に通い、心配をかけないことが親孝行だ」と訓示を垂れた。

久太に薫陶を受けた俊雄は、今の教育にはこの「基本」がいくつも欠けていると憂えている。「教育」ではなくなり「学育」に走りすぎていると嘆いている。本当の教育は「躾」であり、そして「文化や歴史を学ぶこと」だという久太の言葉は俊雄に深くしみ込んでいる。久太から紹介された映画監督と映画の制作に没頭した。

子どもたちは言葉には興味を示しにくいが、映像には関心を示しやすい。映像は子供たちの心に入っていきやすいからと考えていたのが理由だった。

教育とは一見無関係の映画に取り組んだのも、やはり俊雄の教育にかける思いが強かったからだった。「アジアの嵐」という作品にも私財を投じ、多くの協力者を得たものの、監督が病に倒れたことを機に中断してしまったという。俊雄はいまでも監督の遺志に報いたいから何らかの再開を図りたいと、いまなお、情熱を高まらせている。

俊雄はとにかく曲がったことが許せない性分だが、その素養は高校生の時に備わったのかもしれないという。

かつて中学生の頃の俊雄は毎週日曜日にはカトリックの教会のミサに通っていたことがあった。

アイルランド人の神父から神父になることを勧

められ、長崎の神学校に進学したことはあまり知られていない。

結局、神父になることはなかったが、長崎の神学校時代に机が隣だった後輩が、のちの長崎大司教になったという縁を得ることができたという。

今も年に一度の会合があり、旧交を温めているという。この時の環境が俊雄に与えた影響もまた大きかったという。

教育には、その子の年齢に応じた接し方があるという。就学前の児童に対しては、時には愛情に裏打ちされた体罰を以て教えることがあるべきだという。物事を理解できていない幼児に説得は無意味だからだ。

小学生になると、物事の良しあしが分かり始めてくるから言い聞かせの方が良いという。そして、その子の人格が形成されるのが小学校時代をどう過ごすかが極めて重要だと訴えている。私たちも小学校時代のことはよく覚えていることからも、その意味がよくわかるところだ。文武両道の聞こえはいいが、「文」か「武」のどちらかしか光らない子の方が多いし、どちらにも光らない子も多数いる。

要は文武両道をめざすなかにおいても、ひとりひとりの個性を見極める眼力が大人には求められていると俊雄はいう。

俊雄にもたくさんの失敗があるというが、そんなことをその後の糧にできるような人材を輩出していきたいと、いまでも俊雄の思いは強い。（つづく）

主張
日本国民を貧乏にする自民党
稲毛新聞論説員　入野 守雄

平成元年（1989）に世界の時価総額ランキング50位内の日本企業は30社もあったが、現在では43位のトヨタ1社だけになった。さらに、国民1人当たりの所得が世界第2位から26位に下がり韓国にも抜かれた。事実を認識していないのが日本国民である。

それはNHKを始めマスコミが国民に真実を知らさないからである。

政治家や国家公務員、特に財務官僚は日本が敵の敵国条項のある国際連合の指図に盲従していて、日本国が敵国であることを認めているからだ。

国連のIMFは敵国の日本経済を破壊するため35年前に債権大国、金持ちの日本に財政が破綻すると消費増税を命じた。

キャリア官僚は国民が選ぶのではなく、上級国家試験に合格すれば採用される。

民主国家は国民が政治家を選ぶが、日本では2億円の選挙費用が必要なので、まともな人物は政治家になれない。キャリア官僚は地位が上がれば上がる程、大企業や大学に天下りできる。国家公務員は国民とは対極にある存在。

明治時代は武士魂を持ったエリート官僚がいたので、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦までは戦争に勝てたが大東亜戦争ではNHK、朝日新聞、産経新聞記者の司馬遼太郎、近衛文麿ら共産主義者が暗躍して負けた。

国家公務員は国家試験に合格したので独裁的となり、個人の自由や権利を抑えても良いとする共産主義と結び付く。共産主義の教祖マルクスが資本主義経済は共産主義経済になると予言したが、現実は共産主義のソ連が崩壊した。

資本主義経済と共産主義経済は経済の主体者がキャリア官僚であるか民間人であるかの違いである。日本の財務官僚はマッカーサーよって共産主義者となったので、日本経済は成長出来ない。

ソ連は共産主義官僚が経営する計画経済であり、国債発行の借金を否定したから、民需品の設備投資が出来なかった。生活必需品は生産できず、商品が不足すればインフレになるのに物価統制で物価は抑えられ、人民は長い行列で日用品を購入した。

ソ連はテクノクラウトと言う特権階級が生まれ、共産主義は経済成長せず公正、平等ではなくなりソ連社会は崩壊した。

ロシアになって通貨ルーブルは暴落に次ぐ暴落で、2600%のインフレとなってロシア財政は破綻した。

我国は国と地方を合わせて1200兆円の借金を抱えている。政府や地方が1200兆円も借金したから国民の資産は増え、国民全体の資産は3000兆円以上になった。

しかし愚かな政治家は増税するので日本経済はデフレになる。

国民の税金は全て廃止し日銀が円を発行して政府が借りて使い、財政を拡大すれば経済は成長する。明治時代から今日まで日本の財政は3740万倍に増加して近代国家になった。政府が国債を発行して財政を拡大すれば経済は成長する。

しかし、そんなことすればハイパーインフレになり、財政が破綻すると言うアホがいる。ハイパーインフレは供給力に対し需要が100倍以上に増えるから発生する。現在はデフレである。これが判らない政治家、経済学者、マスコミは財政が破綻すると消費増税を主張する。国民もテレビ新聞に洗脳されたから日本経済は成長出来ない。日本国家が衰退するのは当然である。

随想
日本人の防衛意識
鎌ケ谷市・元稲毛小校長　島津幸生

防衛白書なるものの内容が報告されたのは7月14日であった。

今回実物を見てみたいと本屋（私の場合船橋東武デパート内）に行ったら店に入荷するのは8月中旬であり1ヶ月程度後であることがわかった。

53年前新卒の夏休みにひとりで北海道稚内先の礼文島（瑪瑙がとれる海岸がある）へ行った。

利尻島まわりの船に乗り稚内から札幌へもどる列車の中で自衛隊員の方と話すチャンス（当時2人掛けで向き合い）があったので「今ソ連（現在ロシア）が攻めてきたらどうします」と聞いたら「逃げる」との答えだった。

戦前の満州で日本の関東軍は国民を置いて逃げているのでおやおやと思ったものだ。

また今から10年前（平成22年）エジプト巡りのツアーに参加した時、ルクソールからカイロ市内に戻る途中、エジプト人のガイドが「今日本が攻められたらあなたがたはどうします？」とみんなに聞いたので私は即座に「戦う」と言ったらびっくりしている風だった。

聞くと今迄の日本人観光客の答えは「逃げる」だったらしい。完全に日本人は馬鹿にされていると言うことがわかった。

さて白書であるが防衛白書が最初に発行されたのは昭和45年（1970年）日航機「よど号」乗っ取り事件があった時よりで、国が発行する実情報告書を白書と言い昔イギリス政府が発行した報告書が白い表紙だったことに由来するそうだ。

今回購入した本のサイズはA版で30×21cmであずき色の表紙に白ぬきで令和2年度防衛白書と書かれており、富士山と梅の絵があしらわれてあり、背表紙には令和2年度防衛白書日本の防衛・防衛省となっている。

厚さは1.7cm600ページで結構重く定価は1270円であった。

今回初めて読むので今年の特色について知る由もないが新聞によると『中国の軍事的動向に強い危機を示し特に中国公船による尖閣諸島（沖縄県石垣市）周辺での度重なる領海侵入を「力を背景とした一方的な現状変更の試み」を執拗に継続しており強く懸念される』と厳しく非難しているとあり、執拗との表現は初めてとあった。

民主党政権時代の中国共産党に遠慮した時代の防衛白書は本当の現状報告であったのであろうか気になった。

また周辺（中国・北朝鮮）の脅威を強調していると社説に書いた新聞があるそうだが能天気な新聞社もあるものだとこちらの方が不安になった。

災害派遣が新聞に載るが立ち位置はやはり日本、日本人の安全保障だろう。国土防衛が大事と言うのが私の考えだ。

ワクチン接種補助拡大発表
市医師会幹部に知らされず

このほど千葉市は、65歳以上のインフルエンザワクチン接種の補助の対象を「生後6カ月以上」に拡大すると発表した。

新型コロナウイルス感染症がいまだ収束しない中、インフルエンザや肺炎などが流行する季節を迎えるにあたり、市民の健康を守る観点からすると、助成の対象をほぼ全市民に拡大することは、素晴らしい施策である。

市外の医療機関で接種した場合も助成の対象とするなど、柔軟な運用にしていることは熊谷市長ならではの英断である。

ところが、地元の千葉市医師会の幹部が市の方針を知らされないままでいることが分かり、物議を醸している。

市医師会のある副会長は「市から連絡がない。理事も知らない。市民から問い合わせも入っており、勝手にやられて困っている。理事会でも問題視している」というのだ。

別の幹部は、「市長レベルで発表したのだろうが、フライングだ」としている。

ワクチンメーカーは、需要の拡大を見越して例年より12パーセント増産することにしているが、この医師会幹部は、その程度の増産体制ではとても足りないと心配している。

市が市医師会と協議しないまま発表に至ることは考えにくいが、市医師会幹部が困惑していることも事実だ。

中には、「前市医師会長だった現県医師会長は熊谷市長と近いが、その前市医師会長と近いから、そのラインでは話があったのかもしれない」といぶかる幹部もいるほどだ。

とてもよい政策であるだけに、このような話がもれ伝わってくることは残念としか言いようがない。念のため、市医師会や会員医師各位への周知を図る必要がありそうだ。そうでないと医療の現場で混乱が生じかねないからだ。

本紙の取材に対し市医師会は「理事にも会員医師にも周知している」と回答している。

あかいの郷創業家が要望書
虐待はなかった、追放される理由はない

乗っ取られた特養老人ホーム「あかいの郷」

社会福祉法人徳和会の創業家である小川家が、混迷を深める「あかいの郷」の運営に協力したいとして千葉市に協力を申し出たことがわかった。

小川和人医師は整形外科医としての活動の中で高齢者医療の悲惨さを目の当たりにしたことから、社会福祉事業で貢献したいと考えるようになったが、その中で職員間の対立から起こってもいない虐待事件を理由に追い出されるに至った事件は、のちに東京高等裁判所で濡れ衣であることが証明されたのに、千葉市は原状回復しておらず、不当な扱いを受けた小川家の名誉は回復していないとしながらも、地域医療を守るため、千葉市に協力したいとの内容だ。

平成13年に千葉市が募集した社会福祉事業に応じ、私財8億8千万円を投じ平成15年4月に特別養護老人ホーム「あかいの郷」が開設された。小川氏はその後発生したトラブルの責任をとって平成22年に退任せざるを得なくなったものの、東京高裁が小川家に責任がないことを認めて決着している。

本来なら判決に従い、千葉市は小川家の名誉回復に努めるべきであったが行なわず、小川家は千葉市によって「追放」されたままだ。

小川家が投じた8億8千万円が小川家に返ってくることはないから、千葉市に「乗っ取られた」との主張もあったわけだ。騒動から10年が経過した今、行政の介入を招いた責任の一端は小川家にもあるとしたうえで、あかいの郷を地域に根差した高齢者施設として発展させていきたいし、他の施設との連携・協力の確約も取り付けているとしている。

かねてよりあかいの郷の経営事情について心配する声が上がっているが、現在の経営幹部の尽力もあり、なんとか持ちこたえている状況に、大きな援軍となりうる申し出であろう。

すべての関係者がかつての遺恨から脱却し、高齢者本位の施設運営が推進されることを願うしかない。

千葉テレビで本紙紹介
吉成庸子さんが激励

左から佐藤主幹、吉成さん、佐藤夫人

千葉テレビで毎週日曜日12時から放映の「怪傑TV！」に、本紙にエッセイを掲載の吉成庸子さんが毎回出演して千葉各地の明るい話題を紹介している。

9月6日には弊社発行の稲毛新聞を取り上げ、日本一小さい新聞社「稲毛新聞社」を訪れて、佐藤社長と共に創刊以来二十数年の実績を紹介した。吉成さんは、佐藤社長夫妻に稲毛新聞を「いつまでも続けて下さい」と激励、最後に吉成さんと佐藤夫妻の3人で右手のこぶしを振り上げ「がんばるぞ！」と叫んで取材は終わった。

住まいの救急社！
漏った、詰まった、壊れたの修理は笑顔で参上
地元のリフォーム工事店　（有）マイケン

技術の差が出る外壁塗装

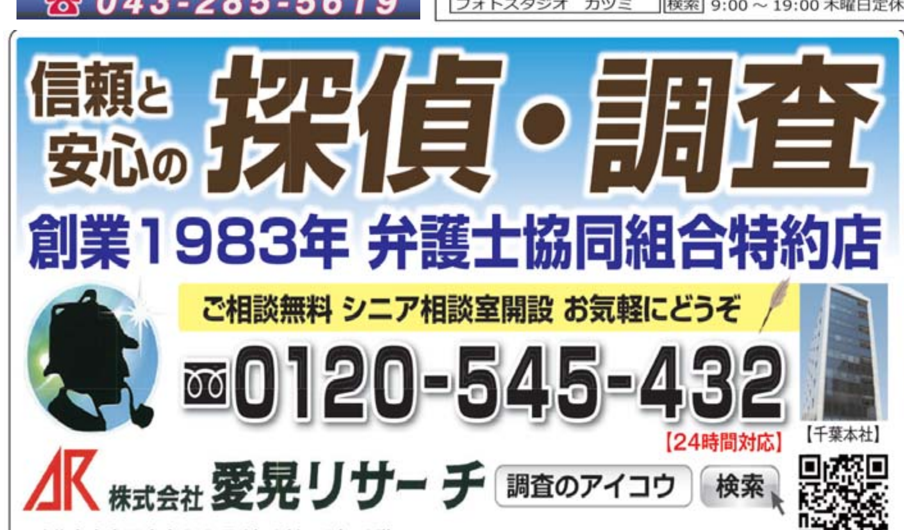
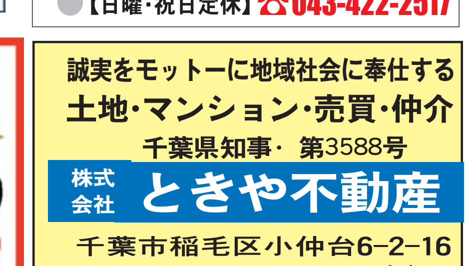
家は新築から10～15年、その後10年ごとに塗り替えると長持ちします。

しかし塗装の耐久性には塗料の質と塗装技術が大きく影響します。質の良い塗料は技術を持った職人さんにしか塗れません。マイケンの塗装技術と丁寧な仕事には定評があります。そろそろ外壁塗装の時期を迎える方、マイケンに相談してみてください。

出張相談、見積もりは無料です。

社長のひとり言
『料金所』

わが社の車はETCの自動料金の機械が付いていません。高速道路の料金所の係員と短い会話をしていると隣の無人のETCレーンを車が通り過ぎて行きました。あれ！何か寂しい気持ちになりました。便利な世の中になればなるほどいろいろな所で無人化されて人と会話する機会が無くなって行きます。ランチに行くファミリーレストランも会話のないタブレットにての注文に変わりました。

これから益々自動化が進み人とのかかわりが少なくなるので、脳の刺激が無くなり齢を重ねて行くたびにボケのスピードが早くなりそうです。

※連絡先・千葉市稲毛区小中台町二〇一～一四
TEL043・207・7122